

市長記者会見記録

日時：2020年11月16日（月）14時00分～14時24分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：令和2年第6回川崎市議会定例会議案について（総務企画局、財政局）
市政一般

<内容>

<令和2年第6回川崎市議会定例会議案について>

【司会】 ただいまから、市長記者会見を始めます。

本日の議題は、「令和2年第6回川崎市議会定例会議案について」となっております。

それでは、初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願いたします。

【市長】 それでは、令和2年第6回市議会定例会の準備が整い、11月24日火曜日招集ということで、本日告示をいたしました。今定例会に提出を予定しております議案は条例14件、事件37件、補正予算2件の計53件、また、諮問1件、報告2件でございます。

今議会の主な議案といたしましては、議案第205号及び第206号の補正予算でございます。このうち、一般会計の補正予算の内容といたしましては、今年度に限り、高齢者のインフルエンザ予防接種の自己負担を免除することに伴い所要額を増額することや、地域を支える公共輸送サービスを確保するために、運行を継続している路線バス事業者に対する支援を行うことなどで15億円余の増額をお願いするものでございます。

特別会計の補正予算は、国民健康保険事業会計におきましてシステムの改修を行うため、債務負担行為を設定するものでございます。

また、追加議案といたしまして、川崎市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の条例1件と、人権擁護委員の候補者の推薦についての人事案件1件の計2件を提出する予定でございます。川崎市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例につきましては、期末勤勉手当を支給する日が迫っておりますことから、他の議案と分割し、先行議決をお願いするものでございます。

いずれの議案につきましても川崎市政にとって重要なものばかりでありますので、議会の皆様とは真摯に議論させていただき、両輪となって市政を運営してまいりたい

と考えております。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明しました議題についての質疑に入らせていただきます。なお、市政一般につきましては、本件終了後、改めてお受けしたいと思えます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【幹事社】 幹事社です。よろしくお願いいたします。今、コロナの第3波も来ていると言われていてということで、ちまたでも、経済との兼ね合いも含めて、どうするかということ、見直しを迫られるような状況にもなりかねないという冬の時期を迎えてきていますけれども、改めまして今回の補正予算、これからの市の予算に向けて、感染症対策の位置づけといたしますか、かなり機動的に判断しないといけないような事案も出てくるのかもしれないんですが、改めてどのような形で今回臨まれているかというのを伺えますでしょうか。

【市長】 これは補正予算から、よろしいんですかね、全般的にお答えして。

【幹事社】 可能なところで、すみません。

【市長】 じゃ、ちょっと議案のことについて触れさせていただくと、高齢者のところですね。インフルエンザと同時流行させないよということ、今回、高齢者に対する助成を行うということでもあります。おかげさまでというか、現時点においてはインフルエンザの発生状況は極めて少ない状況であります。先週の段階でも、定点観測というか、やっているところでも報告例はこれまでに1件ということでございますので、非常によかったと思っていますが、気を抜かずに、重症化を防ぐためにも、受ける方についてはしっかり受けさせていただきたいと思っています。

お尋ねの全般的な感染の状況と今後のことについてでありますけれども、本当に第3波、思った以上に急速に伸びが来ているところだと思います。県でも医療アラートというのを出されたということで、私たちも医療提供体制については、病床確保については、市内の医療機関と連携を万全に期していきたいと思っています。

一方で、お尋ねの経済との両立についてというのは本当にどこに正解があるのかなかなか難しいところではありますが、日常の生活を取り戻しながらも、とにかく感染対策をこれまでやってきていただいたことは、若干何といたしますか、もう十分やってきたよという思いがあるのか、少し気持ちが緩んでいるという声は至るところで聞こえてきますので、やはり原則どおり、もう耳だこになっているかと思いますが、3密を避けるということを徹底していただくということだと思います。冬場の時期、換気が非常に難しくなってくるころ、そこを特に注意していただきたいなと思っておりま

す。

【幹事社】 分かりました。

【幹事社】 予算に関わるかあれなんですけど、感染症対策系をやっている職員の方、かなり超過勤務が続いているようなので、補正予算の中にも入っていますが、その辺は市長として、結構終わりが見えないような状況かなという気はするんですが、人員補充なり交代でうまく休んでいくなりということは考えていらっしゃると思いますか。

【市長】 本当に保健所の専門的な仕事でない部分については、なるべく切り分けてということは、保健所のところでも相当工夫をいただいていると思います。例えば、コールセンターは外部に委託するとか、そういったことはやってきているんですが、どうしてもやはり他職種では変わり切れない部分もありますし、保健師の方をすぐに増員することは事実上不可能ですから、そういった意味では、どううまく切り分けをやっていくかということをやっていくしか、残念ながら、方法があまり見いだせてないのが正直なところだと思います。そのためにも、医療だけではなく、保健所の機能が逼迫（ひっばく）しますと、感染拡大防止策に著しい困難を来しますので、そういった意味でも、市民の皆さんの御協力をいただきたいと思います。

【幹事社】 各社さん、お願いします。

《市民ミュージアム浸水被害について》

【記者】 今日午前中に、市民ミュージアムのあり方検討部会がありまして、そこで参加した委員の方が、等々力緑地外で展示と、あと収蔵施設が一体となったものを整備するのが望ましいというような方向性というか、そういうコンセンサスを得たということがあったんですけども、仮にそうなった場合に、緑地のほかに、交通の便もいいようなところで、何か整備するいい候補地とか、今のところは思い浮かぶところはありますかでしょうか。

【市長】 まず、今日の午前中の議論、どういうふうになったのかということの報告、まだ受けてないので、先生方からどういう御意見をいただいたのかということを確認させていただきますけれども、今の御質問のお答えとすれば、現時点では、私たちがここだというふうな、こういう候補地があるということは現時点ではないので、そういうふうな外でということになれば、適切な候補地を探していかなくちゃいけないと思いますが、川崎市内のところとなりますと非常に難しいことになるだろうなというのは容易に想像できますが……。

【司会】 市政一般は後ほど……。

【記者】 ごめんなさい。

【市長】 ごめんなさい、私も。難しい課題だとは思いますが、いずれにしても、私たちの、市民の大切な財産である収蔵品をしっかりと展示していく、見ていただく機能はこれからも必要だと思いますので、まず、どういう御意見が出たのか、しっかりと把握したいと思います。

《令和2年第6回川崎市議会定例会議案について》

【記者】 補正予算で、今年度は何度もやってきて、経済政策が今回のものはそんなに大きなものがなくて、だんだん弾切れになってきているのかな、もしくはお金がないのかなとか、いろいろ考えるところはあるんですが、市長、現状で、まず回しているもので十分だとお考えなのか、あるいは、もう少しお金があれば、もっとこんなこともしたいというのをどうお思いなのか、その辺、どうでしょうか。

【市長】 今、来年度予算に向けてのいろんな議論は進めております。単発でやっていくというのは、今回、経済の統計が出ておりましたけれども、若干戻ってきている部分ではありますが、この辺りをより注意深く見守っていかなくちゃいけないかなと思っています。短期対策というよりも、今後、より中期的な対策が必要になってくるのではないかなと思いますので、そういった意味では、現状をしっかりと把握して、来年度などにつなげていきたいとは思っております。

【記者】 じゃ、今、単発で出すというよりは、それをしっかりと見極めて、新年度予算なり、その後のということでしょうか。

【市長】 そうですね。

【記者】 今に関連してなんですけれども、今後やっぱり見ていく必要があるということだと思いますが、現状でどこらへんに手当てを、どういうところに手当てをしたほうが良いと感じていることがあれば教えてください。

【市長】 例えば、これまで進めてきた働き方改革の取組への支援なんかも、コロナでやっていくべき方向性と非常に似ている部分、重なる部分があると思うんですよね。そういったものが、私たちの中小企業支援みたいなものを下支えしていくことになるのではないかなとは感覚的には思っていますが、それは今後の議論をしっかりと経済労働局中心にやっていきたいと思っています。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本議題についてはこれで終了といたします。ここで、関係職員、退席をお願いいたします。

《市政一般》

《市長の任期を踏まえた今後の市政の課題について》

【司会】 続きまして、市政一般に関する質疑応答に入らせていただきます。進行につきまして、改めて幹事社様、よろしくお願いいたします。

【幹事社】 よろしくお願ひいたします。市長の任期が11月18日で、あと残すところ1年と伺っております。近年を見ても、災害にコロナと大変な市政の時期が続いているかと思ひますけれども、改めて4分の3まで来たところの課題、そういう意味での残り1年強、どのような形で市政に取り組まれていくかという課題などをお伺ひできますでしょうか。

【市長】 今御質問でおっしゃっていただいたように、コロナとその前も災害対応、それから、必ずしも本市がという以上に、例えば、これまでやってきたものでブロック塀が倒壊したとか、その対策だとか、特定天井対策だとかという、そういうまちの強靱化というか、レジリエンスに関わる取組というのが、この数年、すごく課題として出てきたと思ひます。これまでも取り組んできましたが、よりその辺りというのは、これからも注力していかなくちゃいけないと思ひますし、まずは目下のコロナ禍の感染拡大防止対策と、それから、まさに今まで議論になっていました経済をどうやって両立させていくかということに、残り1年をしっかりとやっていかなくちゃいけないのかなとは思ひています。

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例関連について》

【幹事社】 分かりました。もう一つ、先日、まちづくり条例に関する審査会の方たちが答申案をまとめられて、今週、早ければ今日にも案を出して、今回は市長への手交という形ではないですけれども、市にお示しするというスケジュールが先日晒されましたが、そちらの状況についてお伺ひできますでしょうか。

【市長】 ごめんなさい、何のあれでしたっけ。

【幹事社】 ごめんなさい。差別的な書き込みのサイト5件について。

【市長】 この記者会見が終わった後、報告を受けることになっていまして、45件のお話ですよね。その件については、しっかりとこれまでどおり対応していきたいと思ひています。委員の先生方にも、今回、かなりスピード感を持って御審査いただいたと思ひていますし、それに呼応するような形で、しっかりと取り組んでいきたいと思ひています。

【幹事社】 分かりました。

【幹事社】 審査会の件なんですけれども、一応、一通り諮問は終わったのかなと思ひうんですけど、今後諮問していくものとか、そういうのって決まっているものとかあ

るんですか。

【市長】 今、いろいろ精査中だと聞いていますが、随時必要があれば諮問にお願いしていくということになります。

【幹事社】 この間のツイッターのやつもいまだにまだ消えてないという、そういうのって再度要請するみたいなことってあるんですか。

【市長】 やり取りは聞いておりませんが、ツイッター社ともお願いをしているというふうには、状況把握とお願いはさせていただいていると聞いていますので。

【幹事社】 各社さん、お願いします。

《川崎フロンターレについて》

【記者】 川崎フロンターレが今週末に最速で優勝するかもしれないという状況のようです。前ははまだ、優勝に向けた対応はまだ考えられないという段階でしたけれども、今のところ、何か話が進んでいたりすることはあるのでしょうか。

【市長】 クラブ側とは話はしておりますが、ただ、クラブ側も現在、そう言いながらもやっぱり試合をやっている真っ最中なので、非常にその難しさがあると思いますので、そこは緊密に連携を取りながらというぐらいですかね。

【記者】 パレード、従来のように難しいかもしれないんですけども、お祝いをするような何らかのセレモニーやイベントなどはありそうでしょうか。

【市長】 現時点では何とも申し上げられません。

【記者】 あと、すいません、先日、引退表明の中村憲剛選手について、サッカー選手としてもかなりベテランの方でいらっしゃいますし、並びに、川崎市にも大分貢献してくださった方です。栄誉賞だとか賞を差し上げる予定、今までずっと何回も受賞されている方なんですけれども、引退に寄せて、何かそういった御対応という予定はございますでしょうか。

【市長】 含めて、いろいろ考えております。

【記者】 ありがとうございます。

《新型コロナウイルス感染症対策について》

【記者】 コロナが今こんな状況の中ですけれども、年末年始の市政の閉庁というか、いつから仕事始めで仕事終わりでみたいなことの方針は決まっているのかということと、忘年会シーズン、新年シーズンに向けて、市民に対して何か呼びかけたいことがあればお願いします。

【市長】 まず、庁内の体制については、それぞれ各課ですとか各部ですとかという、そういう小さい単位で休暇が取れるような、そういった体制は個別にやって調整をお

願いますということですが、全体として大きな変更を加えることは、なかなか現時点では難しいと思っております。この前のコロナ対策会議でも、総務局長から発出したあのメッセージどおりということで変わりはありません。

それから、年末年始、まだちょっとありますけれども、ぜひ感染状況を、こういう状況ですから、1週間単位で物事がくるくる変わっていく。本当に先週の状況から今週になると、感染状況、かなり悪化している部分って、悪化と言ったらあれなのかもしれないけれども、増えてきている部分ありますので、そういった対応をしっかりと見ながら、適切なメッセージを私も出していきたく思いますし、参考にさせていただければと思っております。

《市民ミュージアム浸水被害について》

【記者】 先ほど、先走って質問してすいませんでした。あの件について、市長のお答えで、詳しいのは聞いてないという前提で、市内で難しいのは想像できるとおっしゃったんですけど、それはどういう意味……。

【市長】 ごめんなさい、市内で……。

【記者】 要するに、緑地じゃないところに展示と収納を一体にしたものを……。

【市長】 ミュージアムの件ですね。

【記者】 ごめんなさい、ミュージアムの件です。それで、市長のお答えが、まだ聞いてないから何ともという部分はあるけれども、市内にはそういう施設を整備するのが難しいのは想像するとお答えのように……。

【市長】 もうちょっと正確に言うと、一般的に考えると、大きな施設をどんどどこかで市内でというとなかなか難しいとは思いますが、かつ、そんなに、例えば、市有地が残っているとかというところもかなり条件は狭められてしまっているの、一般的に考えられると難しいとは思いますが、それでも、そういった検討をしていかなければならないなとは思っています。

【記者】 なるほど、分かりました。

【市長】 否定的な言い方ではございません。状況は難しいけれども、何とかしなければならぬという。

【記者】 検討しなきゃいけない。

【市長】 はい。

【記者】 分かりました。

【記者】 すいません、今の関連で。そういった検討はしなければならぬというのは、市内で候補地を探していかなくちゃいけないという、そういう御意図なんですよ。

か。

【市長】 市のミュージアムですから、市内にあるのは当然だと思いますが、いわゆる浸水想定地域にも入っていない、収蔵にも適している、様々メリット、デメリットを比較して考えていかなくちゃいけないと思うんですが、それに見合う候補地というふうな、これから探すことに、検討していくことになると思うんですが、非常にハードルは、広大な敷地を持つ県とか都市よりは難しいというのは感覚としてはあります。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。御質問のほうはよろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355